

熊本県博物館ネットワークセンターだより 熊本の自然と文化

編集・発行 熊本県博物館ネットワークセンター
2019 年 7 月 12 日

No. 43



イベント情報（令和元年 8 月～11 月）

企画展

会場：熊本県博物館ネットワークセンター 入場無料

第 2 回

国立科学博物館コラボミュージアム

「生命のれきしー君につながるものがたりー」

国立科学博物館との共同開催により、化石や岩石を通して、地球の歴史、生命の歴史を紹介します。

○開催期間

令和元年 8 月 3 日（土）～9 月 29 日（日）



イノセラムス



ニッポノサウルス

第 3 回

「ちょっと昔のくらし探検X」

小学校 3 年生の社会科で習う道具を中心に、昔懐かしい暮らしの様子や仕事の道具を一堂に紹介します。

○開催期間

令和元年 10 月 8 日（火）～12 月 15 日（日）



「ちょっと昔のくらし探検区」（昨年度）

フィールドミュージアムに飛びだそう！

県内のさまざまな場所で自然観察会を行います。熊本の豊かな自然に触れてみませんか。

プログラム	場所	日時	定員	内容	申込期間
水辺の植物を観察しよう	嘉島町 浮島神社周辺	8/17（土） 10:00～12:00	20 名	川や池の水辺に生育する様々な植物を観察します。	7/22～ 8/2
天体観測② 「月の観察」	熊本市南区城南町 県民天文台	9/13（金） 19:30～21:30	60 名	天体望遠鏡で月の観察や写真撮影をします。	8/9～ 8/23
地層と化石を観察しよう	上天草市松島町 千巖山	10/26（土） 13:30～15:30	20 名	地層と化石を専門家の解説とともに見学します。	9/27～ 10/11
落ち葉図鑑を作ろう	和水町 肥後民家村	11/16（土） 10:00～12:00	20 名	落ち葉を集めて世界に一つの落ち葉図鑑を作ります。	10/21～ 11/1

対象：幼児～一般 ※小学校 3 年生以下は保護者同伴

申込み方法：参加希望プログラム名、参加者全員の住所・氏名・年齢・電話番号をご記入のうえ、往復はがきまたはメールで、博物館ネットワークセンターへお申込みください。申込み多数の場合は抽選で参加者を決定します。

（往復はがきで申込みの場合は、返信用はがきに住所・氏名を記入してください。締切必着。）

No. 224
地 学

きせき
バラ輝石 Rhodonite

バラ輝石は、バラの花のような赤色やピンク色をしていることから名付けられた鉱物です。英語名の“Rhodonite”も、ギリシア語のバラ“rhodon”に由来しています。結晶の形が見られることは少なく、多くは粒状の鉱物の集合体として産出します。また、長い間空気にさらされると、酸化して黒くなるという特徴があります。

バラ輝石は、マンガンを含む鉱物で、マンガン鉱床中によく見られます。マンガン成分の割合は低いのですが、太平洋戦争中から戦後にかけて、「バラキ」というマンガン鉱石として採掘されました。

写真1の標本は、玉東町にある木葉山の東方で採取したバラ輝石です。全体的に濃いピンク色をしています。標本をよく見てみると、粒状の鉱物の集合体でできており、ところどころに透明でやや大きな鉱物が見られます。

木葉山周辺から鹿央町南部にかけてマンガン鉱床が分布しており、かつて木葉山の東方では盛んにマンガン鉱石の採掘が行われていました。この標本を採取した鉱山では、主にバラ輝石が採掘されていました。現在、鉱山は閉山しており、この付近でバラ輝石を採取するのは困難です。(廣田志乃)



写真1 バラ輝石

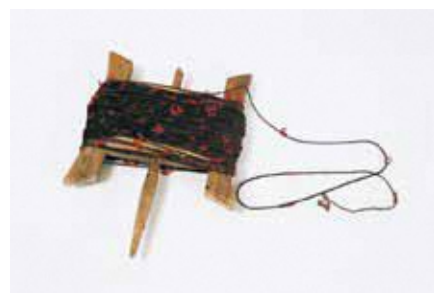
No. 225
民 俗

田植縄

田植縄は、苗を縦横真っ直ぐ一定の間隔に揃えて植える“正条植え”を行うための道具です。県内ではタウエヅナと呼ばれることが多いようです。水に強いシュロや麻の細縄に、目印とする赤い紐が付いています。化繊の縄にプラスチックの玉を付けたものや針金のものもありました。

昔の田植えは乱れ植えとってだいたいの間隔で植えていましたが、明治の中頃より正条植えが広まると、直角を測る定規や、植える位置に型を付ける枠など、正条植えを行うための様々な道具が考案されました。田植縄もそのひとつですが、田植えをユイやモヤイと呼ばれる共同作業で行うところでは、縄を用いるやり方が最も能率的だったようです。

使い方は、まず、基準とする縄を田の一辺に張って固定し、これと直角になるように縄を張って、印の位置に苗を植えます。一列植えた後退し、縄を張り直して植えていくことで、等間隔に植えることが出来ます。株間は8寸(約24cm)が一般的とされますが、ネットワークセンターに収蔵する田植縄は、印の間隔が6寸(約18cm)から9寸(約27cm)の間で様々なものがあり、使用者が田の条件に合わせて間隔を決めていたことが分かります。(迫田久美子)



タウエヅナ

熊本市南区城南町 昭和30年代まで
木枠 42×30×4cm
シュロ縄の印間隔 7.5寸(約23cm)



田植縄を用いた田植え

八代郡竜北町不知火干拓
1968年 白石巖撮影

No. 226
動 物

キベリマメゲンゴロウ *Platambus fimbriatus* (ゲンゴロウ科)

キベリマメゲンゴロウは体長 7 mm ほどのゲンゴロウで、名前の通り、上翅を縁取るように淡黄色の模様が入る美しい種類です。ゲンゴロウの仲間の多くが池や水田といった止水環境に生息しているのに対し、本種は水のきれいな河川の中～下流域に局地的に生息しています（写真 2）。

本種の生息する環境は水質汚濁や河川改修などの影響を受けやすく、それに伴って本種の生息も危うくなっており、環境省のレッドリスト（2019 年版）で準絶滅危惧、熊本県のレッドリスト（2014 年版）では絶滅危惧 IA 類となっています。熊本県のレッドデータブック（2009 年版）によると、本種は県内では荒尾市、菊池市、熊本市から記録があるようですが、いずれの産地でも近年は生息が確認できなくなっているようです。

写真 1-2 の個体は高森町の河川で確認されたもので、川岸の淀みに比較的まとまった数が見られました。この美しい虫と彼らが生きる美しい川を、いつまでも大切に守っていききたいですね。（中園洋行）



写真 1
キベリマメゲンゴロウ標本（高森町産）



写真 2 生態写真（高森町）

No. 227
歴 史

大津俊太郎創傷部位検査書

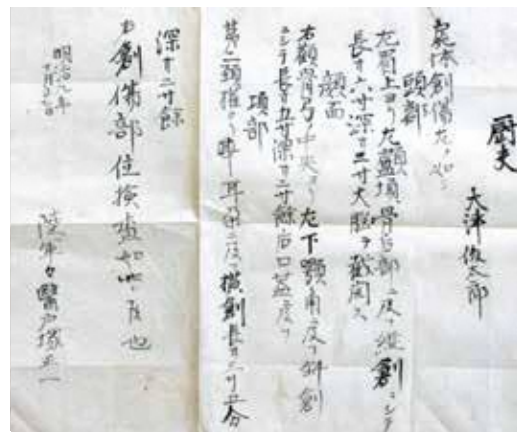
この資料には、明治 9 年（1876）10 月に熊本で起こった神風連の乱の死亡者である大津俊太郎が受けた創傷部位の検査結果が書き記されています。

大津は、明治 7 年（1874）10 月から熊本鎮台病院^{ちゆうふ}厨夫として勤務した人物で、この厨夫とは、調理場で働く男子のこと、いわゆる料理人のことです。

神風連の乱では、要人と鎮台兵營の襲撃が行われ、その際に、鎮台司令官種田政明^{たねだまさあき}などの要人を殺害し、さらに、兵營に放火するなどしたため、襲撃当初は鎮台を混乱に陥れました。しかし、戦闘中に賊徒の指導的立場の者が戦死したことや襲われた鎮台兵が反撃に転じると、多くの賊徒が鎮台内から退却し、自刃したり捕縛されたりして終結しました。

大津が受けた創傷は、頭部に長さ 6 寸（約 18 cm）、深さ 3 寸（約 9 cm）の「大脳を截開」するほどの縦創、顔面に長さ 5 寸（約 15 cm）、深さ 2 寸程（約 6 cm）の斜創、項部に長さ 3 寸 5 分（約 10 cm）、深さ 2 寸程（約 6 cm）の横創と書かれ、大津が受けた傷は、刀や槍による傷であることがわかります。

最後に、日付を見ると明治 9 年 10 月 27 日とあり、前日の 26 日に種田政明の創傷部位の検査^{せつかい}（注 1）をしていることから、乱の終結頃には、陸軍軍医によって死傷者の状況の把握が行われていたようです。（堤将太）



大津俊太郎創傷部位検査書

（注 1） JACAR（アジア歴史資料センター） Ref. C08052381800（第 7～9 画像目）、明治 9 年「卿官房中西国事件密事日記 10 月」（防衛省防衛研究所）

No. 228
植 物

ナンバンギセル *Aeginetia indica* (ハマウツボ科)

ナンバンギセルは、イネ科やカヤツリグサ科の植物の根に寄生する一年生の寄生植物です。他の植物に寄生して栄養をもらって生活しているためか、緑色ではなく黄色がかった色をしています。寄生した箇所から伸びる短い茎には、小さな葉が何枚かついています。夏になると、細長い花茎を数本伸ばし、その先に一個ずつ花を咲かせます。淡い紫色の花は茎や花茎とは不釣り合いなほど大きく、形は煙草を吸うためのパイプ、すなわち煙管に似ていて、とても目立ちます（写真1）。



写真1 ナンバンギセルの花



写真2
ナンバンギセルの標本

写真2の標本は、当センターを拠点に活動するミュージアムパートナーズクラブ「雁回山の植物を観る会」の活動の際に採集されたものです。ナンバンギセルの代表的な宿主であるススキ（イネ科）の草むらを会員みんなで探索して見つけた果実期の標本です。丸く熟した果実の表面をやぶると、くすんだ緑色がかった黄土色の粉が大量にこぼれます。余りに小さいため肉眼では粉にしか見えませんが、これがナンバンギセルの種子です。

近年、身近な道具となったスマートフォンを使うと、このナンバンギセルの種子のようなとても小さなものもしっかり観察できるようになります。スマートフォンのカメラに、マクロレンズを取り付けることで拡大して撮影でき、画面上の操作でさらに拡大してみることもできます。写真3は、この標本の種子を撮影したもので、種子の大きさは、長さ約0.3mm、幅約0.2mmであることが分かります。さらに種子表面に浮き出ている細かな網目模様も出てきます。



写真3 ナンバンギセルの種子
（上）iPhone6 Plus +マクロレンズで撮影
（下）さらにデジタルズーム（画面上での拡大）で撮影。

なぜこんなに小さいのだろう、網目模様はどんな役割があるのだろうか。観察の世界が広がると、新たな不思議が見えてきます。
（前田哲弥）

熊本県博物館ネットワークセンター

〒869-0524 宇城市松橋町豊福 1695

TEL : 0964-34-3301 FAX : 0964-34-3302

E-mail : hakubutsuse@pref.kumamoto.lg.jp

HP : <http://kumamoto-museum.net/kmnc/>

〔公共交通機関〕

○九州産交バス：松橋バスターミナルより宮原経由
八代市役所行き「希望の里入口」下車

○JR：松橋駅より約 3 km

